

大学院『専攻別3つのポリシー』

〈学位授与方針〉 〈教育課程の編成・実施方針〉 〈学生の受け入れ方針〉

哲学専攻修士課程

1. 学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

哲学専攻の修了生には、哲学分野に関する広く深い学識と柔軟で論理的な思考力、他者との知的対話の力を修得したうえで、哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学の三領域のいずれかにおける専門的な研究を行い、適切な研究方法によって修士論文を作成することが求められます。

また学修・研究を通して、世界を的確に把握する力、社会に主体的に関わる力を獲得し、専門的な研究者、教員、美術関係の専門家として、またその他の職業・活動において、有意義な貢献のできる資質を身につけることが求められます。

2. 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

哲学専攻では、哲学・思想史、美学・芸術学、キリスト教学に関するコースワークとして各種の特論を、修士論文作成の指導のためのリサーチワークとして論文演習を開講しています。

これらの授業においては、ひとりひとりの学生に対してきめ細かい指導を行うことにより、学生が高度な専門性と思考力を獲得し、質の高い修士論文を作成できるよう配慮しています。またみずからの意見を論理的かつ適切に表現し、他者の意見を精確に理解し対話する力を養うことを重視しています。

このほか、研究に必要な場合には、他専攻の科目や哲学専攻の承認した学部開講科目、委託聴講制度の協定を結んだ他大学の大学院科目を、一定の範囲内で履修することができます。また所定の教職専修免許状取得のため修了要件外の学部開講科目を履修することも可能であり、新規に教員免許を取得する際には長期履修制度を利用できる場合もあります。

なお哲学専攻では、指導教員と副指導教員とによる複数指導体制をとっており、学業全般に関して複数の指導教員に相談することができるほか、指導教員以外の教員の授業も自由に履修し、指導を受けることができます。

3. 学生受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

哲学についての学士課程修了程度の専門的知識と論理的な思考力、適切な表現力、語学力を身につけてください。また、ものごとを根本から問う姿勢を涵養しましょう。

さらに学士課程での学業や社会での活動等を通じて、修士課程において主体的に研究するための動機・目的を明確にし、修士論文作成に向けた研究計画をあらかじめ立ててください。

なお、社会人特別選抜制度や長期履修制度を利用して、社会や家庭等における活動経験から導き出された哲学的課題の探求を志す社会人も受け入れています。

(2018年3月7日更新)